

セキュリティサービス

セコムのセキュリティサービスの仕組みと優位性

セコムは、オンライン・セキュリティサービスを開始した1966年当初から、「セキュリティ機器を売る」のではなく、「セキュリティというサービスを提供したい」と考えていました。

そこで、異常の監視、情報の伝達などには機械の迅速性と正確性を利用し、判断力や機動力、処置力を必要とする部分は人間が行うというそれぞれの特長を組み合わせ、効率的で質の高いセキュリティサービスを実現しました。

セコムのオンライン・セキュリティサービスの仕組みは、ご契約先にセンサーなど各種セキュリティ機器を取り付け、通信回線を利用してお客様とセコムをつなぎ、24時間365日セコムのコントロールセンターが監視します。そして、侵入・火災などの異常信号を受信すると、最寄りの緊急発進拠点から緊急対応員が駆けつけ、必要に応じて警察や消防に通報するというものです。

セコムがセキュリティ機器の設置や監視だけでなく緊急対応までを提供する理由は、「緊急対応を行い、ご契約先の安全を確保して、初めて安全を提供したことになる」と考えているからです。

現在、国内では、セコムのオンライン・セキュリティサービスが最も多く利用されており、ご契約先の業種も多岐にわたっています。セキュリティサービスは、地域や業種など、お客様によって異なる多種多様なニーズに迅速かつ適切に対応する必要がありますが、次のようなセコム独自の仕組みがそれを可能にしています。

● **スピーディーな緊急対応**：セコムは、長年培った豊富な経験と、その経験を生かした管制員の素早い判断力や訓練された緊急対応員の俊敏性といった初動の早さにより、迅速な緊急対応を可能にし

ています。加えて、緊急発進拠点が業界最多の全国約2,750カ所あり、1拠点当たりの担当エリアが狭くなることで、より迅速に緊急対応を行うことができます。また、セコムの緊急対応員は、屋外用携帯緊急通報システム「ココセコム」を装備しているので、指示を出すコントロールセンターでは緊急対応員の所在を瞬時に把握し、最寄りの緊急対応員を急行させることができます。

● **ひとつ上の安全システム**：セコムは、セキュリティサービスの提供を通して培ったノウハウを生かして、二重三重のバックアップ体制を整備するなど、ワンランク上のセキュリティサービスを提供しています。例えば、お客様のところに設置したセキュリティ機器とセコムのコントロールセンターをつなぎ通信手段として、お客様の電話回線と携帯電話網を併用するなど通信のバックアップ体制を用意しています。

● **独自の研究開発体制**：セコムは、日々の営業活動の中で、お客様から「こんな機能がほしい」「先日、こんな怖い目に遭った」などのご要望やご意見を絶えずいただいています。また、実際の犯罪に対処した際の状況を詳細に把握したり、開発スタッフが直接お客様を訪れてお話を伺ったりしています。セコムには、セキュリティシステムの研究・開発から機器の製造、販売、セキュリティプランニング、設置工事、24時間監視、緊急対応、メンテナンスまで、一貫して行う体制があります。セキュリティサービスにかかわる各部門は、相互に連携し合い、サービスの提供を通して得た情報をもとにセキュリティニーズの洗い出しからセキュリティシステムの開発までを総合的に行うことで、お客様のさまざまなニーズを反映させたセキュリティシステムの開発や改善

を迅速かつ的確に行っています。

- **人材の教育と管理**：全国4カ所にある研修センターで、緊急対応員が知識や技術とともに、最も大切な企業理念「セコムの理念」や安全のプロとしての行動規範を徹底的に習得することを繰り返しています。これが、質の高いサービスの提供に結びついています。
- **総合的な安心の提供**：セコムは、セキュリティサービス事業のほかに、防災サービス、メディカルサービス、保険サービス、地理情報サービス、不動産開発・販売、情報・通信その他のサービス事業を展開しており、これらの事業を組み合わせ「安全・安心」の総合的なサービスを提供することができます。これにより、セコムは単にセキュリティシステムの提供にとどまらず、お客様が不安をいつでも相談できる「安全・安心のパートナー」となり得るのです。

さらに、セキュリティサービスにおいては、多種多様なニーズに応えたサービスを最適な価格で提供する必要があります。このためセコムでは、ご契約先に設置するセキュリティ機器をセコムが所有し、お客様にレンタル方式で提供することを基本としています。このレンタル方式の採用により、お客様はセキュリティ機器を購入する場合に比べて、初期の導入費用を抑えることができます。また、セコムがこれらの機器を維持・管理しているので、故障した場合やバージョンアップが必要な場合に迅速かつ柔軟な対応が可能となり、常に安定した高品質のセキュリティサービスを提供できます。

このようなセコム独自の仕組みが相乗効果を発揮することで、セコムのセキュリティサービスの優位性が確立されています。

事業所向けセキュリティサービス

画像認識技術の活用と通信インフラに対応したシステムを開発し、さらなる普及に努めています。



独自の画像認識技術で、 さまざまなシステムを開発

凶悪化・巧妙化・短時間化する傾向にある犯罪の防犯対策として1998年に開発・発売したのが、オンライン画像監視システム「セコムAX」です。

「セコムAX」は、異常時のご契約先の状況をセコムのコントロールセンターにおいて画像で確認できるため、より迅速な緊急対処が可能となるだけでなく、コントロールセンターの管制員がご契約先に設置したスピーカーを通して音声による警告を行うことで、犯罪を抑止することもできます。

「セコムAX」の特長は、画像センサーにあります。この画像センサーはセコム独自の画像認識技術を利用して、侵入者と侵入者以外を識別し、また暗闇でも侵入者の姿を検知するなど、「安全・安心」の信頼性を向上させています。

長年、画像センサーを利用したセキュリティシステムを提供してきたことで、セコムの研究・開発部門は画像認識に関する技術力を向上させるとともにノウハウを蓄積してきました。その結果、セコムのさまざまなシステムに画像認識技術を活用できるようになりました。

例えば、ATM（現金自動預払機）の前で不審な人の行動を画像と音声で自動認識する「振り込め詐欺防止システム」などに、「セコムAX」の画像認識技術が生かされています。

今後、さらに、サービスの提供を通じて蓄積した、画像に関する技術力やノウハウを活用し、社会の変化やニーズに対応した質の高いセキュリティシステムを開発していきます。

多数の監視カメラを一元管理する 効率的なシステムを開発

日本では、近年、犯罪の凶悪化を背景に体感治安が悪化しつつあると言われています。このような社会状況の中で、監視カメラが犯人検挙の重要な手がかりや犯罪抑止の一助となることから、その役割が高まり、設置台数も急速に増えています。

一方で、多数の店舗や事務所をお持ちの企業は、監視カメラの画像を記録・保管するために、拠点ごとに記録装置を設置する必要があり、設置スペースや運用コスト、画像管理などの課題を抱えています。

そこでセコムは、IT技術と長年培ってきたセキュリティのノウハウを融合し、イントラネットなど既存の社内ネットワークを有効利用して、複数の施設に設置



オンライン画像監視システム「セコムAX」

した監視カメラの画像を1カ所で集中記録・保管（アーカイブ）できる「セコム画像アーカイブシステム」を開発しました。こうした背景には、大容量データの伝送が可能になった通信インフラの向上があります。

このシステムでは、多店舗展開のご契約先が、各店舗に設置された監視カメラの画像を企業のイントラネットを有効利用して、本社の管理部門などで一元的に集中記録・保管することができます。

これにより、従来のシステムで発生していた運用面やコスト面、設置スペースなどの課題の解決や、個人情報でもある画像データの管理ニーズにも対応できます。セコムは、「セコム画像アーカイブシステム」を普及させることで、より安全で安心な社会の実現に寄与していきます。

家族・店舗・公共施設の状況を携帯電話でリアルタイムに確認できるシステムを開発

セコムは、これまでに培ってきた技術ノウハウを応用して、「セコム無線画像伝送システム」を開発しました。

このシステムは、Webカメラのようにインターネットやパソコンを必要とせず、携帯電話のテレビ電話機能を使って現地の状況を画像と音声で確認することができます。

「セコム無線画像伝送システム」では、例えば、コインランドリーや洗車場など複数店舗を所有する企業のオーナーが各店舗の状況を携帯電話でリアルタイムに確認することができます。また、店舗で異常や緊急事態が発生したときは、従業員が「通知ボタン」を押すだけでオーナーにメール通知できるため、より

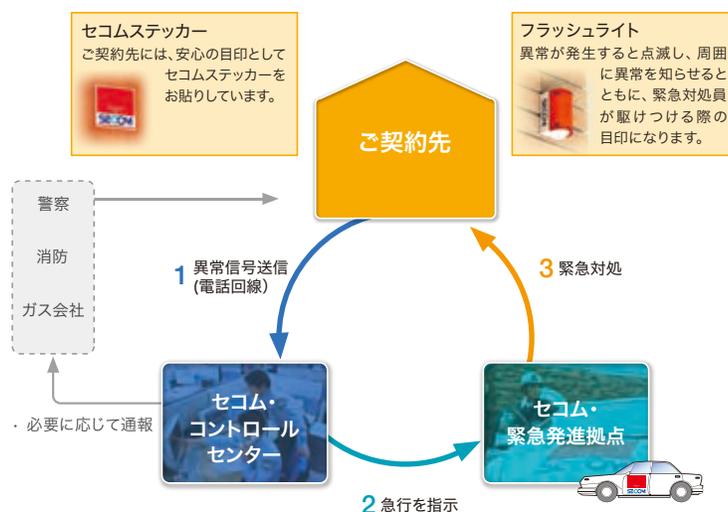
迅速な対応が可能です。

また、監視カメラなどを車に設置することで、車内の状況を確認することもできます。近年、車両の交通事故の記録として、画像記録型のドライブレコーダーを導入する企業が増えていますが、これは記録された画像を事後に確認するためのもので、リアルタイムでは画像を確認できませんでした。「セコム無線画像伝送システム」は、ドライブレコーダー機能に加えて、リアルタイムで状況を確認できるため、このような問題も解決されます。



セコム・コントロールセンター

セントラライズドシステム



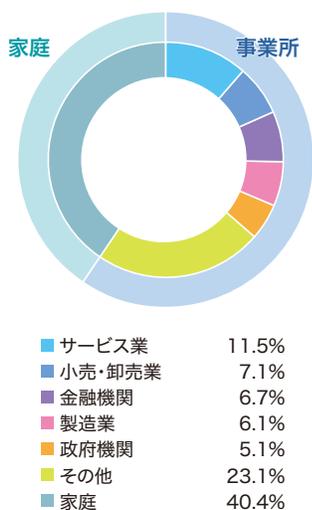
さらに、「セコム無線画像伝送システム」は、離れて暮らす一人暮らしの高齢者の安否をご家族が確認できるシステムとしても、注目されています。日本では、高齢化や核家族化が進んでおり、離れて暮らす高齢者の状態を知りたいという、切実なご要望が寄せられています。

このシステムを利用すれば、親御さんの自宅に設置したカメラからの画像と音声を携帯電話で確認でき、親御さんも体調の悪いときなどに「通知ボタン」を押すだけでご家族にメール通知をすることができます。このほかにも、ペットを飼われている方は、留守中のペット

の様子を携帯電話で確認することができます。

セコムは、幅広い用途に使える「セコム無線画像伝送システム」を、お客様の多様なニーズに応えるシステムとして、積極的にご提案しています。

セントラライズドシステムの契約先区分
(2010年3月31日現在)



「セコム無線画像伝送システム」

家庭向けセキュリティサービス

より安全・安心、便利で快適な暮らしを実現するために、「セコム・ホームセキュリティ」を核に充実した高品質のサービス・商品で、ご家庭の多様なニーズに応えます。

総合的な安心を提供する

「セコム・ホームセキュリティ」

家庭向けオンライン・セキュリティサービスの「セコム・ホームセキュリティ」は、住宅に設置したセンサーなどのセキュリティ機器により、侵入・火災・非常通報・ガス漏れ・救急通報などを24時間365日監視します。セキュリティ機器が異常を感知すると、セコムのコントロールセンターに異常信号が送信されます。信号を受信したコントロールセンターでは、管制員が状況を確認し、緊急対処員に対処を指示し、緊急対処員が適切に対応します。また、必要に応じて警察や消防へ通報します。

セコムは、1981年に日本で初めて家庭向けのオンライン・セキュリティサービスを開発・発売しました。それ以来、セコムはお客様の声を反映し、また社会の変化に素早く対応しながら、防犯機能や便利な機能を充実させてきました。

「セコム・ホームセキュリティ」は、外出中に限らず、就寝時など家にいるときの防犯機能も充実しています。無人の1階を警戒状態にして2階は解除にするなど、ご家庭の生活空間に合わせたセキュリティを実現できます。また、携帯電話の普及に伴い、「セコム・ホームセキュリティ」をさらに便利にご利用いただくため、携帯電話を利用した機能を付加できるようにしています。例えば、外出先から携帯電話でホームセキュリティの状態を確認し、操作を忘れていた場合は、携帯電話を使って警戒状態にすることができます。

そして、セコムは研究開発部門を持つことにより、「セコム・ホームセキュリティ」と合わせて利用できる独自の安全商品を数多く開発し、「セコム・ホームセキュリティ」の設置後も、お客様のニーズに応じてセキュリティレベルの向上を図れるようにしています。

例えば、「セコム・ホームセキュリティ」と「屋外画像監視サービス」を組み合わせることで、庭などの敷地に設置されたセンサーが侵入を検知すると、屋外に設置された監視カメラの画像がセコムの画像センターに送信されるので、より迅速な対応が可能になります。

さらに、「SECOMあんしんガラス」を接続すれば、防破性の増強だけではなく、ガラスが破壊されると瞬時にセコムへ自動通報されるので、犯罪を初期段階で発見し、迅速かつ適切な対応を行うことができます。

近年、高齢者の増加に伴い、高齢者世帯を狙った強盗事件が相次いでいます。そのため、高齢者の方々が防犯を目的に「セコム・ホームセキュリティ」をご契約されるケースが増えています。



「セコム・ホームセキュリティ」

そして、「セコム・ホームセキュリティ」は、防犯対策としてだけでなく、高齢者の方々に大きな安心を提供するサポートサービスがあることも、魅力のひとつとなっています。

例えば、救急サービスでは、急病やケガをしたときに「マイドクター」というペンダントタイプの送信器を握るだけでセコムに救急信号が送られ、セコムではあらかじめ登録された主治医への連絡や救急車の手配を行います。

また、「ライフ監視機能」では、日常生活で必ず通る場所に設置したセンサーが、一定時間人の動きを確認できない場合は、異常と判断してセコムに異常信号が送信されます。離れて暮らす一人暮らしの高齢者のご家族にとっては、とても安心なサービスです。

現在、「セコム・ホームセキュリティ」は、戸建て住宅、二世帯住宅、マンションなどに設置され、若い独身者から中

高年のご家族、高齢者まで、幅広いお客様にご利用いただいています。セコムは、ご家庭ごとにさまざまな「安全・安心」のニーズがあると考え、今後も「セコム・ホームセキュリティ」を中心に家庭向けセキュリティサービスの充実を図り、普及に邁進していきます。

利用者の増加で事業が拡大する 「セコム・ホームサービス」

「セコム・ホームサービス」は、お客様の声から生まれた生活支援サービスとして、2005年から「セコム・ホームセキュリティ」のお客様を対象に開始されました。現在、需要の増加に伴い、「セコム・ホームセキュリティ」をご利用のお客様以外の方々にもサービスの一部をご利用いただけるようにしました。また、さらなるサービスメニューの充実とサービス提供エリアの拡充を図るとともに、セコム独自の厳しい研修を受けたスタッフ

が清掃サービスを提供するなど、サービスの質の向上を図っています。

「セコム・ホームサービス」のサービスメニューには、セコムのセキュリティスタッフが暮らしの不安を解消する「あんしんサポート」(家の見回りなど)、突然起きた住まいのトラブルに素早く対応する「トラブルサポート」(鍵のトラブルなど)、ご家庭内の家事などのお手伝いをする「家事サポート」(部屋の清掃など)、年間を通じてお客様のライフスタイルに合わせたサービスを計画的に提供する「セコム・ホームサービスパック」があります。

特にご好評をいただいている「家事サポート」には、住まいの気になる汚れやカビなどを専用の洗剤や機材を使って落とす「専門清掃」や、日常の部屋の片付け・調理・洗濯・布団干しなど短時間からご利用いただける「ご家族おてつだいサービス」があります。

高齢化と核家族化を背景に、セコムは今後もさらなるサービスメニューの拡充をめざしていきます。



「セコム・ホームサービス」の「ご家族おてつだいサービス」



「セコム・ホームサービス」のキッチンの清掃

その他のセキュリティサービス

個人のセキュリティを支援する「ココセコム」のさらなる普及を進めています。



多様な用途に利用できる

「ココセコム」を拡販

セコムは、2001年に屋外用携帯緊急通報システム「ココセコム」を発売し、個人向けの位置情報提供サービス市場に進出しました。

「ココセコム」は、GPS(全地球測位システム)衛星と携帯電話基地局の電波を利用して、専用端末の位置を高精度に突き止めることができます。

また、身の危険を感じたときに専用端末の通報ボタンを押すと、ココセコムオペレーションセンターに緊急通報され、要請に応じて24時間365日緊急対処員が駆けつけるので、大きな安心を得ることができます。

「ココセコム」は、子どもの誘拐や高齢者の徘徊、自動車やオートバイの盗難対策として発売されましたが、お客様からさまざまなご要望が寄せられて、次第に用途が拡大してきました。今では、若い女性の防犯対策、外出や出張の多いビジネスマンや経営者の非常通報用、バッグの紛失や盗難、金庫やATMの破

壊・持ち去り、ブルドーザーやショベルカーの盗難対策、業務車両の運行管理に至るまで、幅広く使われています。

「ココセコム」を標準装備した お子様向け携帯電話を開発

2009年春以降、小中学校に子どもが携帯電話を持ち込むことを規制する動きがあります。その背景には、子どもが携帯電話のメールやインターネット機能などを使うことにより、いじめや犯罪に巻き込まれる原因になっていることが挙げられます。

一方で、登下校時などに子どもの安全が気になる保護者にとっては、子どもに携帯電話を持たせることで子どもの現在位置が分かり、防犯ブザーがあればさらに安心という考えがあります。

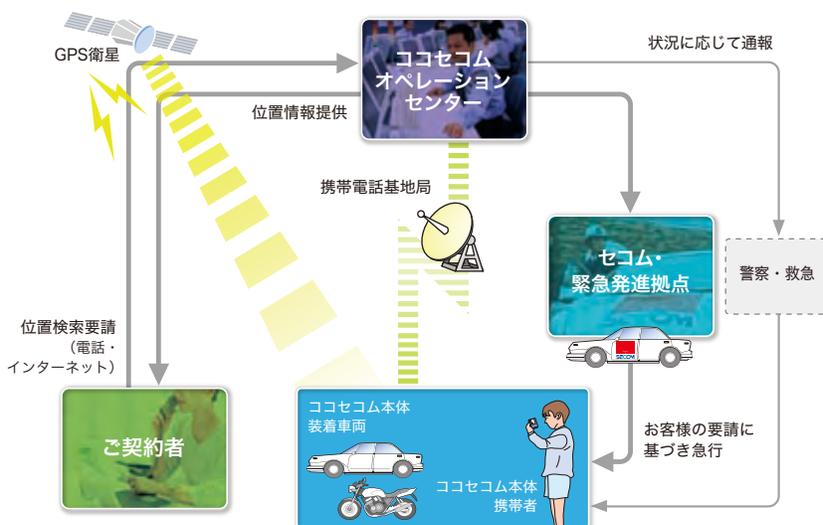
この安心へのニーズに、よりの確にお

応えるために、セコムは大手通信会社との協業で、子どもが「安全・安心」に使える携帯電話「mamorino(マモリーノ)」を開発しました。「mamorino」は、防犯ブザーと「ココセコム」の機能を標準装備した携帯電話です。

お子様が防犯ブザーを鳴らすと、「ココセコム」の機能で自動的にセコムのココセコムオペレーションセンターに通報が入り、お子様の位置を特定することができます。そして、オペレーションセンターからお子様本人と保護者へ連絡を行い、要請があれば、緊急対処員がお子様のところへ急行します。

また、この携帯電話は、Webサイト閲覧機能がなく、電話とメールの相手先があらかじめ設定した4件に限定されているので、メールやインターネットのトラブルからお子様を守ることできます。

ココセコム(位置検索 + 現場急行サービス)



海外でのセキュリティサービス

「セコム方式」のセキュリティサービスを、国や地域の状況に合わせてカスタマイズして提供することで、着実にご契約先を拡大しています。

海外での セキュリティサービス事業の進展

セコムの海外事業は1978年に台湾に進出したことに始まり、その後、進出地域を広げ、韓国、中国、タイ、マレーシア、シンガポール、インドネシア、ベトナム、英国、オーストラリア、米国の11の国と地域でセキュリティサービス事業を展開してきました。

セコムでは、「セコム方式」のセキュリティサービスを、進出先の国や地域の状況に合わせてカスタマイズして提供しています。「セコム方式」とは、ご契約先の異常をコントロールセンターで監視するだけでなく、異常を検知するとセコムの緊急対処員を急行させ、必要に応じて警察などに通報するオンライン・セキュリティサービスです。

日本と同じこの「セコム方式」は、緊急対処は行わず異常の発生を警察などに通報する欧米のオンライン・セキュリティサービスに比べて、「安全・安心」レベルが高いことが評価され、次第に需要が伸びています。

中でも、台湾の合弁会社「中興保全」は、台湾全土に拠点を持つ、マーケットシェア第1位のセキュリティサービス会社で、台湾の証券取引所に株式を上場しています。中興保全は、セキュリティ機器をレンタルして長期契約を結ぶというセコムのビジネスモデルも踏襲しています。また、「ココセコム」をヒントにして独自に開発した位置情報サービスの提供やAED(自動体外式除細動器)も販売し、2009年には画像機能やホームオートメーション機能を充実させた新し

いホームセキュリティシステムの販売も開始しました。

韓国の合弁会社「エスワン」は、家庭から企業、大規模施設までのご契約先を持つ韓国でトップシェアのセキュリティサービス会社です。エスワンも韓国の証券取引所に株式を上場しています。

東南アジアでも、「セコム方式」によるセキュリティサービスのさらなる拡大を図っています。タイとマレーシアでは、首都から地方の主要都市へと事業を展開しています。シンガポールでは、「セコム方式」の質の高さが評価されています。インドネシアでは、セコムのグループ会社がセキュリティのリーディングカンパニーとして、首都ジャカルタを中心に着実に事業を拡大しています。外資の参入規制があるベトナムでは、セキュリティサービスのコンサルティングやソリューションの提案を行っていますが、将来的にはオンライン・セキュリティサービスの提供も視野に入れています。

英国では、1991年に現地のセキュリティサービス会社を買収して、セキュリティサービス事業を開始しました。英国のセキュリティ業界は、他社の多くがセキュリティ機器の販売・設置業者です。これに対し、セコムでは、機器の販売、設置、24時間監視、緊急対処からメンテナンスまでのサービスを一貫して提供してきました。「セコム方式」のセキュリティサービスのご契約件数が増えていくにつれて、他社とは一線を画したサービス品質の高さが理解され、現在ではご家庭や企業、公共施設などで利用が拡大しています。



**中国市場では
内陸部に進出して事業を拡大**

セコムは、1992年から中国の潜在成長力に着目して、中国市場に進出しました。経済成長が著しい沿海部の主要都市、大連、北京、青島、上海、深圳、福州で、「セコム方式」のオンライン・セキュリティサービスを提供し、現在はそれらの都市の周辺部にある瀋陽、無錫、昆山、杭州、天津、広州などへもサービス拠点を拡大しています。今後は、内陸部の主要都市へも進出し、着々と事業の拡大を図り、最終的には、中国全土でセキュリティサービスを提供していくことをめざしています。

中国では、安全に対する意識の高まりとともに、質の高いセキュリティサービスが求められるようになったことから、「セコム方式」のオンライン・セキュリティサービスの真価が徐々に評価され、契約件数が着実に増えています。また、中国の現地企業の契約件数が日系企

業や外資系企業の契約件数を上回っており、中国社会が「セコム方式」のオンライン・セキュリティサービスを受け入れ始めていることが分かります。

中国ではセキュリティ市場の拡大に伴い、参入する企業が増加しています。しかし、セコムは、中国においてもセキュリティを選択するうえで鍵を握るのはセキュリティサービスの質の高さであると考え、2008年上海に研究開発センターを設置し、「セコム方式」のサービスシステム運営で培った豊富な経験とノウハウを有効活用することでサービスレベルの向上を図り、さらなる普及に注力しています。なお、同センターでは、機器等の規格変更にも迅速に対応し、中国のご家庭向けセキュリティサービスの提供に向けて準備を進めています。

セコムは、中国でセキュリティサービスを提供するだけでなく、防災・セキュリティ機器の製造も行っています。能美防災(株)とセコム(株)の合併会社

では、中国市場向けに防災機器を製造・販売するとともに、セキュリティ機器を製造して、日本、中国、東南アジア各国に供給しています。



北京京盾セコム エレクトロニック セキュリティ Co., Ltd. のコントロールセンター



台湾全土に普及が進む中興保全のセキュリティシステム



韓国・エスワンのコントロールセンター

防災サービス

豊富な施工実績の強みを生かして防災システムのリニューアル市場に注力し、新商品の開発にも取り組んでいます。



需要が増加する火災報知設備の リニューアル

能美防災(株)は、防災のパイオニアとして、オフィスビル、プラント、トンネル、文化財、船舶、住宅などのさまざまな施設に、高品質な火災報知設備や消火設備などの防災システムを提供しています。

近年、オフィスビルの老朽化に伴い、火災報知設備のリニューアル需要が増加しています。能美防災は、豊富な施工実績と長年培ってきたお客様との信頼関係を生かして、リニューアルの受注を数多く獲得しています。高層ビルなどでは、今後順次、火災報知設備のリニューアルの時期を迎えます。その需要に的確に対応するため、能美防災は専門部署を設置して、提案営業の質的向上を図っています。今後も、リニューアルのさらなる受注拡大をめざしていきます。

火災予兆検知システム 「PROTECVIEW」を開発

火災予兆検知システム「PROTECVIEW」は、コンピュータ/サーバー室、通信機械室、クリーンルーム、配電盤設備など、焼損事故を避ける必要がある場所に最適なシステムとして開発されました。

超高感度の煙検知システムで、火災の予兆を常時監視することにより、万一のときには早期対応で損害を最小限に抑えて、早期復旧を可能にします。例えば、コンピュータ/サーバー室は、機器を冷却するために空調気流が常に循環しており、熱や煙が薄められたり拡散されたりするので、異常を初期段階で発見することが極めて困難です。そのため、重要な情報を守るには、異常の兆候を早い

段階で知り、施設をいち早く人的管理下に置くことが重要です。「PROTECVIEW」は、循環する空調気流を監視し、超高感度の煙検知システムで火災事故に至る前兆を早い段階でとらえることにより、火災を未然に防ぎます。

住宅用火災警報器の普及をさらに推進

2006年の消防法の一部改正により、2011年5月末までに順次、住宅用火災警報器を設置することが、全国の住宅に義務付けられています。能美防災が製造し、セコムでも販売している住宅用火災警報器については、そのラインアップをさらに拡充し、火災の発生をより速やかに把握できる無線式連動型住宅用火災警報器の販売を開始しました。

この住宅用火災警報器は、寿命10年の電池式で配線工事不要という、これまでのセコムの住宅用火災警報器の特長に加えて、煙や熱を感知すると火災を感知した警報器が音声で火災の発生を知らせると同時に、家中のすべての警報器も無線で連動して警報を鳴らします。

これにより、離れた部屋の火災も瞬時に把握できるため、避難やその後の消火活動も迅速に行えます。今後もセコムは、住宅火災から大切な生命や財産を守るために、住宅用火災警報器の普及に努めていきます。



泡消火設備



タンクヤードの水幕設備



無線式連動型住宅用火災警報器

メディカルサービス

医療・健康・介護の分野でサービス・商品を拡充して、社会に安心を提供しています。



順調に利用が拡大する 「在宅医療サービス」

セコムがメディカルサービス事業に進出したのは、「安全・安心」を突き詰めていくと、人の健康や生命を守ることにつながると考えたからです。在宅医療サービスから始まったメディカルサービス事業は、その後拡充し、現在セコムは医療・健康・介護の分野でさまざまなサービス・商品を提供しています。

メディカルサービス事業の大きな柱のひとつが、「在宅医療サービス」です。これには、自宅療養を行う患者さんを看護師が訪問して、医師の指示のもとに処置などを行う「訪問看護サービス」と、院外処方箋に基づいて保険調剤を行う「薬剤提供サービス」があります。

「訪問看護サービス」は、患者さんやそのご家族から高い満足度を得ています。その理由は、セコム独自の研修によって常に訪問看護師のスキル向上を図り、看護のプロとして患者さんの症状に十分配慮した「安全・安心」な看護サービスが提供できるように取り組んできたからです。現在、セコム訪問看護ステーションは、全国主要都市に拠点網を展開するとともに、患者さんやそのご家族が看護師に24時間連絡を取れる体制を整備しています。

「薬剤提供サービス」は、内服薬や外用薬などの一般調剤だけではなく、在宅で療養を続ける患者さんのための高カロリー輸液や疼痛緩和用注射薬などの

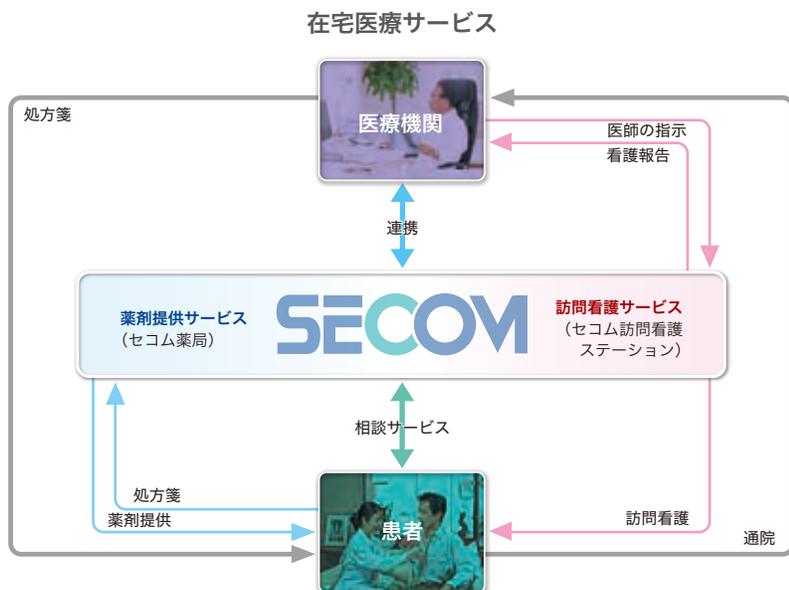
調剤、薬剤師による訪問服薬指導などの提供に加えて、難病指定になっている肺高血圧症の患者さんに「在宅フローラン療法」の支援も行っています。

24時間、緊急時に備えているセコムの「薬剤提供サービス」は、在宅療養をする患者さんに長年にわたって安心できる薬剤などを提供することで高く評価され、需要が着実に拡大しています。

セコムならではの「安全・安心」で 快適な住環境を提供する セコムのシニアレジデンス

セコムのシニアレジデンスは、入居時に健常な高齢者を対象にしてホテル並みに充実した施設を備えた終身利用型から介護専用型まで、多様なニーズに対応しています。中でも注目されているのが、「安心して老いることができる」社会の実現に向けて、セコムがセキュリティサービス事業とメディカルサービス事業で培ったノウハウを結集して展開している「セコムフォート」シリーズです。

健常な高齢者も介護が必要な高齢者も入居できる「セコムフォート」シリーズは、2006年にオープンした「コンフォートガーデンあざみ野」(横浜市)に続き、第2弾として2009年6月に「コンフォートヒルズ六甲」(神戸市)がオープンし、好評を得ています。「コンフォートヒルズ六甲」は、セコムの提携病院である神戸海星病院に隣接したシニアレジデンスです。居住者の加齢に伴う心と体の変化に対応できる体制も整え、生活のあらゆるシーンで居住者が快適に暮らすことができる施設とプログラムを備えています。



保険サービス

セコムならではのユニークな保険の認知度が向上しています。



特長あるセコムの主力保険を拡販

セコムが損害保険事業を始めたのは、犯罪や火災を未然に防止するセキュリティサービスと、万一被害に遭ったあとの損害を補償する損害保険を組み合わせることで、より強固な「安全・安心」を社会に提供できると考えたからです。

セコムの主力保険には、企業向けの「火災保険セキュリティ割引」や家庭向けの「セコム安心マイホーム保険」、自動車総合保険「セコム安心マイカー保険」

といった、セキュリティサービスを提供するセコムならではの損害保険があります。

「火災保険セキュリティ割引」と「セコム安心マイホーム保険」は、オンライン・セキュリティサービスを導入しているお客様の場合、火災の危険が少ないので、リスク軽減効果によって保険料を抑えることができます。

「セコム安心マイホーム保険」は、お客様のご要望に応じて補償内容を自由に設定できるので、水災の危険が少ない住宅は水災補償を外して保険料をさらに安くすることができ、また火災の危険が少ない耐火性に優れた住宅やオール電化住宅はさらに保険料が安くなります。

これらの保険は、セキュリティの契約をきっかけに加入されるお客様がいる一方で、保険の加入をきっかけにセキュリティの契約をいただくケースもあり、保険とセキュリティの契約増という相乗効果を生み出しています。

「セコム安心マイカー保険」では、お客様が万一事故に遭った場合、お客様

の要請で事故現場にセコムの緊急対応員が駆けつけます。

セコムは、今後も各種保険のユニークな特長を一人ひとりのお客様にご紹介して、拡販に努めていきます。

順調に販売が増加しているガン保険 「自由診療保険メディコム」

「自由診療保険メディコム」は、健康保険が使える保険診療でも、健康保険が使えないため治療費を全額自己負担しなければならない自由診療でも、ガンの入院治療費の自己負担分を全額補償する画期的なガン保険です。

近年、ガン治療は医学の進歩によって、通院による治療が重視されています。そのため、2009年4月から「自由診療保険メディコム」の補償内容をバージョンアップし、通院補償として、業界初の通院日数の制限をなくし、5年ごとに1,000万円の補償を実現しました。

この消費者ニーズに合致した「自由診療保険メディコム」は、お客様に大変好評で、販売件数が増加しています。加えて、大手生命保険会社を通じて販売している「自由診療保険メディコムプラス」も、同様のバージョンアップを行い、順調に販売件数を伸ばしています。



「セコム安心マイカー保険」の現場急行サービス



「自由診療保険メディコム」は最先端の治療にも対応

地理情報サービス

空間情報サービスを活用して、環境や防災、国際分野にも事業を拡大しています。



技術力とノウハウの蓄積により、 事業機会が拡大

(株)パスコは、50年以上にわたり、航空機を中心とした測量、地表データの取得を行い、そのデータを集積して解析する業務にまでその野を広げ、国土や企業経営の基盤情報として重要な社会インフラとなる空間情報サービスを提供してきました。

また、地理空間情報の収集と処理技術において、ノウハウを蓄積するとともに常に最先端の技術を追求し、商業用としては世界最高水準の解像度を持つドイツの人工衛星「TerraSAR-X」の撮影画像も活用しています。パスコは、こうした技術力とノウハウの蓄積により、事業機会が順調に拡大しています。

例えば、日本では、2008年から「カーボン・オフセット」の信頼性を確保する認証制度「J-VER制度」が始まりました。そこでパスコは、地方自治体向けに、空間情報を活用することで、最適な森林管理を実現するビジネスを展開しています。

また、社会インフラの長寿命化やライフサイクルコストの適正化を図る必要性が増えています。道路の維持管理で多くの実績があるパスコは、そのようなニーズに応える新たな計測車両「モバイルマッピングシステム (MMS)」を導入し、事業の拡大をめざしています。

防災の面では、空間情報を用いて新型インフルエンザの感染状況を視覚化し感染予防や拡大抑制を図るため、佐賀県との共同研究により地方自治体の意思決定を支援するシステムを開発し、全国の都道府県や政令指定都市に提案しています。

2008年から、経済産業省の技術施策のひとつである先進小型衛星の開発を低コスト・短期間で実現するASNARO (Advanced Satellite with New system ARchitecture for Observation) プロジェクトが開始されました。パスコは、このプロジェクトの中で搬送可能な統合型小型地上システムの開発を受託しています。沖縄の受信局と完成間近の北海道の受信局に、この統合型小型地上システムを加えて、万全の衛星受信網を構築するとともに、パスコの画像処理技術で環境の監視や防災管理に役立てていきます。

民間企業向けには、これまでのエリアマーケティングソリューションの実績で培ってきた商圈分析手法や現場レベルでの活用ノウハウの中から、主に店舗開発や売り場づくり、商品構成の戦略立案に関するメニューに絞った会員制の商圈分析サービス「商圈大勝」の提供を開始しました。

このように、地理空間情報サービスの提供で培ってきたノウハウと蓄積した技術力で、パスコの事業機会は着実に拡大しています。

国際事業の拡大も加速

パスコは、ドイツの人工衛星「Terra SAR-X」の撮影画像の日本での独占販売権と全世界への販売権を持っています。この撮影画像を利用したのが、森林の減少や劣化による温室効果ガスの排出削減に貢献する、レーザー計測によるバイオマス、炭素台帳マップです。また、昼夜を問わず地上を計測できる「TerraSAR-X」の特長を生かして、世界の災害を観測し、各国政府や災害対策機関に提供しています。

国際事業を拡大しているパスコは、地図データが整備されていない国々の国土基本図の整備・更新ニーズにも応えています。衛星や航空機を使い基盤データを構築して、データを活用するためのアプリケーションを提供し、コンサルティング・人材育成・技術支援といった側面支援も行うことで、災害防止、環境保存、都市開発、インフラ整備など、国の発展に不可欠な国土空間データ基盤の整備といった大型プロジェクトの受注に努めています。

不動産開発・販売

セコムならではの高度なセキュリティを結集したマンションを、開発・分譲しています。



「グローリオ蘆花公園」を販売

セコムは、「安全・安心で快適なマンション」をコンセプトに、セコムならではの高度なセキュリティを結集した「グローリオマンション」シリーズを開発・分譲しています。

2010年1月から入居を開始した「グローリオ蘆花公園」(東京都世田谷区)は、24時間の出入管理、マンション用セキュリティシステム「セコムMS-3」、遠隔画像監視システム「セコムIX」、監視カメ

ラ、外周にはフェンスセンサーなどが設置され、セコムのノウハウを結集した高度なセキュリティ体制により、安全・安心で高品質な住まいを提供しています。

加えて、セコムの提携病院である久我山病院との連携による健康サポートサービスの提供、万一の災害時に防災拠点となるコミュニティハウスの設置など、あらゆる側面で安心な暮らしをサポートしています。

情報通信・その他のサービス

情報セキュリティと大規模災害対策を中心とした総合的な情報通信サービスで、事業の拡大を図っています。



「セコム安否確認サービス」の事業基盤を活用したサービスが拡大

セコムは、情報セキュリティと大規模災害対策を中心とした総合的な情報通信サービスを提供しています。その中で、特にお客様から高い評価をいただいているのが、2004年から提供している「セコム安否確認サービス」です。

「セコム安否確認サービス」は、地震などの大規模災害が起きたときに、社員

の安否やライフライン(水・電気)の被災状況を把握して、事業継続や事業の早期再開を支援します。また、最近では新型インフルエンザの感染確認を標準機能として追加するなど、発売当初からお客様のご要望に応じて、絶えず利便性の向上やサービスメニューの拡充を図ってきました。

2007年からは、企業の重要取引先の安否や被災状況を把握できる「セコム安否確認サービスSCM」(お客様の取引先向け)の販売も開始しました。企業は、事業継続計画(BCP)の観点から、自社だけではなく、重要取引先の被災状況の把握も必須であるという考えから、このサービスも積極的にご導入いただいています。

さらに、「セコム安否確認サービス」のノウハウを生かした新たなサービスも展

開し始めました。「セコム安否確認サービス」の事業基盤と製薬会社のノウハウを応用して開始した、血友病の患者さんのための輸注記録サービス「ゆちゅレコ」もそのひとつです。血友病の患者さんは、毎日、薬や血液製剤などを自分で血管内に注射する「輸注」を行い、医師の治療にあたってはその輸注記録が欠かせません。「ゆちゅレコ」を利用すれば、血友病の患者さんはパソコンや携帯電話で手軽に輸注を記録できるので、記



災害監視センター



録漏れなどを防ぐことができ、治療効果の向上が期待されます。

また、セキュリティサービス事業で培ったノウハウや「セコム安否確認サービス」の事業基盤を活用した、危機管理サービスも開始しました。

セコムがセキュリティサービスを提供する中で運用している緊急連絡体制のノウハウを活用したのが、「初動オペレーションサービス」です。このサービスは、事故や情報漏えいなどの重要事案が発生した際に、お客様の社員や関係者からの事案発生連絡を、セコムが24時間365日受け付けて、事案発生を迅速にお客様の責任者へ通知します。重要事案発生時の連絡体制を確立することで、的確な初動の早期開始をサポートします。

さらに、「セコム安否確認サービス」を大規模災害時だけでなく、日常の緊急連絡網として利用できるようにしたの

が、「セコム緊急連絡網サービス」です。このサービスは、日常発生するさまざまな緊急連絡を携帯電話やパソコンから速やかに電子メールで一斉通知し、応答結果を集計画面で確認することで、迅速な情報伝達を実現します。「初動オペレーションサービス」と「セコム緊急連絡網サービス」を組み合わせることにより、総合的な危機管理体制を構築することができます。

セコムは、今後も「セコム安否確認サービス」の機能をさらに充実させるとともに、新たなサービスを創造し、より多くの方々にご利用いただけるように努めていきます。

「セキュアデータセンター」 新館がオープン

セコムは、コンピュータ・ネットワーク時代の「安全・安心」ニーズに応える情

報セキュリティも提供しています。情報セキュリティサービスのひとつが、「セキュアデータセンター」です。ここでは、厳格な物理的セキュリティ対策と、24時間365日有人監視による高度な情報セキュリティ対策を行った運用環境で、大手金融機関をはじめとする多くのお客様のサーバーや重要データなどの情報資産をお預かりしています。

その需要の拡大に伴い、セコムのノウハウを結集した「セキュアデータセンター」新館が2010年7月にオープン予定です。この新館は、セコムならではの高度なセキュリティを完備し、災害時にはBCPセンターにもなる堅牢な免震ビルで、お客様の効率的なシステム運用をサポートする豊富なサービスを提供しています。今後は、セコムが独自に開発するさまざまな情報通信サービスを提供する拠点として、充実を図っていきます。

セコムの地球環境保全活動への取り組み

セコムは「社業を通じて社会に貢献する」との企業目標に基づき、セコムがめざす安全で快適な暮らしの基盤が地球環境の保全であるという認識のもとに、あらゆる事業活動において、地球環境保全に配慮した行動をとることを環境基本理念としています。

●資源循環型のビジネスモデル

1966年に開始したオンライン・セキュリティサービスでは、セキュリティ機器のレンタル方式を採用することで、お客様へのセキュリティ機器の設置から保守、回収までセコムの責任のもとに管理しているため、廃棄物の削減やリユース・リサイクルを効率的に行うことができます。さらに、グリーン調達、環境配慮設計を推進し、地球環境保全に取り組んでいます。

●事業活動におけるCO₂削減

セコムが保有する約5,000台の車両を、すべて環境対策車に切り替える計画を進めています。また、事業所の照明や空調の省エネ型への切り替え、複合機の導入など、高効率・省エネ機器の導入を推進しています。

運用面では「エコ安全ドライブ」を徹底することにより、運転時の燃料消費の削減と交通事故の発生防止に努めています。また、「環境推進委員会」による自主的なエコオフィス活動や、家族を含めて家庭でもエコ活動ができる「セコムecoチーム」活動を展開し、社員一人ひとりが環境負荷低減に積極的に取り組んでいます。

●さらなる地球環境保全に向けて

セコムの事業活動を通じてさらなる地球環境保全に貢献できるように、LCA (Life Cycle Assessment) の観点から環境負荷の低減、環境貢献事業の創出などに取り組んでいます。